

〈会議報告〉

学んで遊んで、遊んで学んで ——公衆衛生教育ワークショップ顛末記——

小島 光洋（国際協力室）

第1回公衆衛生教育ワークショップは平成3年1月21日から31日の11日間の日程で行われた。既に多くの場所で紹介しているように本ワークショップは国際協力事業団（JICA）の集団研修コース（Seminar on Human Resources Development in Public Health）としても位置付けられており、外国人参加者をJICAが研修員として招聘する仕組みとなっている。集団研修コースとしての定員は12名であったが、実際に参加したのは6名であった（ペルシア湾岸問題の影響ともそうでないとも言われているが、JICAの予算上の問題があったため）。これにやはりJICAのカウンターパート研修（プロジェクト技術協力の相手方の研修）で来日していた研修員が2名加わり、さらにWHO、笹川医学奨学金、中国政府のフェロー3名を合わせて11名の外国人参加者を得た。

一方、International Workshopと銘打っていることもあり、日本側参加者も是非加わって欲しいところである。どのような人を対象とするかに関しては様々な意見があるものと考えられるが、公衆衛生院らしさを発揮できるのはこのワークショップを「出会いの場」として育てていく所にあると思われた。日本国内の公衆衛生技術者が会合機会を提供してきたことは、目立たないながらも本院の果たした大きな足跡であることは疑いもない（しかも、このことを本ワークショップを通じて再び強く認識することになるのである）。広く募集することも可能であったが、時間的事務的な制約もあり今年度は本院の長期課程在籍者から希望者を募った。

最終的には外国人11名、日本人3名でスタートすることになり、栄えある第1回参加者の名簿をここに示す。

期間と内容は表に示す通りであるが、JICA 集団研修コースの人達は1月15日に来日し、3日間のJICAのオリエンテーションを受けた後本ワークショップへの参加となった。このオリエンテーションを含めて、私の目から見たものを綴ってみようと思う。

1月16日、JICA オリエンテーションの初日に番外として午後4時からワークショップの説明を行う。パキスタンのアーメドが未だ到着しておらず少し心配であったが、翌日無事到着したとの連絡を受ける。2カ月前から日本に来ているアヌソン（タイ）を除いて、さすがに皆緊張しているようであるが「よく学び、よく遊べ。」の精神を伝える。

1月21日、午前10時から栄えある（？）第1回公衆衛生教育ワークショップの開講式を迎える。コースリーダーの高石院長、JICA 研修2課新保課長、厚生省国際課福田技官からの挨拶の後、国際協力委員会メンバー他の衛生院スタッフの紹介、参加者の自己紹介があり、小休止の後高石院長から「公衆衛生院の歴史と使命」についての講演と院内見学を行った。昼食用に近くのレストラン等の案内書を用意したが、多くは地下食堂を利用しているようであった。

昼食の後、橋本正己先生から戦後の日本の公衆衛生の発展の歴史についての講義を受ける。橋本先生はこの日少々体調からすぐれなかったそうであるが婦人会を中心としたCommunity participationなど今日のPHCにそのまま通じる内容を英語版VTRを交えながらの講義で参加者全員この方面の努力が花開くものであるとの思いを新たにす。

講義の後に個別研修としてJICAの研修員には各人の関心のある分野について衛生院内外の人達と意見交換ができるようにしてあったが、第1日目は皆真直に（あるいは途中寄り道をして）宿舎に向かったようである。

2日目以降も順調に講義日程を消化し、各講師の名調子（？）に時には聞き惚れ、またある時は質疑や話の内容が思わぬ方向へ行ってしまう以外な話を聞くことが出来たりしたのだが残念ながら詳細は割愛させて頂く。

研修員からは保健所等地方レベルでの公衆衛生行政についてより知りたいとの希望が出たため、個別研修の時間帯を用い公衆衛生行政学部（星室長）と港区芝保健所を急遽アレンジする。地方研修時も含めて、も

LIST OF PARTICIPANTS OF SEMINAR ON HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT IN PUBLIC HEALTH

◆公衆衛生教育ワークショップ参加者名簿◆

NAME 研修員氏名	NATIONALITY 国 籍	PRESENT POSITION 所 属 名 ・ 職 名	NOTE 備 考
DR. SIRIWAT TIPTARADOL	THAILAND タ イ	HEAD, OFFICE FOR TECHNICAL AND HEALTH MAN POWER DEVELOPMENT, MINISTRY OF PUBLIC HEALTH 公衆衛生省技術人材開発課長	JICA集団研修コース
DR. K. RAVI KUMAR	INDIA イ ン ド	SENIOR MEDICAL OFFICER, REGIONAL OFFICE FOR HEALTH AND FAMILY WELFARE, BANGALORE バンガロール地域保健家庭福祉局上級医務官	JICA集団研修コース
DR. VUONG HUNG	VIETNAM ベ ト ナ ム	VICE RECTOR OF HANOI MEDICAL COLLEGE ハノイ医科大学副学長	JICA集団研修コース
MR. HENING DARPITO	INDONESIA インドネシア	SUB-DIRECTOR OF SURFACE WATER SANITATION, MINISTRY OF HEALTH (PUBLIC SERVICE) 保健省水域衛生課長	JICA集団研修コース
DR. MAQSOOD AHMED	PAKISTAN パキスタン	ASSISTANT PROFESSOR, COLLEGE OF COMMUNITY MEDICINE, LAHORE ラホール地域医療大学助教授	JICA集団研修コース
MR. TAN KING BOK	SINGAPOLE シンガポール	ASSISTANT COMMISSIONER OF PUBLIC HEALTH, MINISTRY OF THE ENVIRONMENT 環境省公衆衛生副担当官	JICA集団研修コース
DR. ANUSSORN SITDHIRASDR	THAILAND タ イ	PROVINCIAL CHIEF MEDICAL OFFICER OF LAM- PHUN, MINISTRY OF PUBLIC HEALTH 公衆衛生省ランブーン州医療担当課長	JICA環境衛生研究プ ロジェクトCP研修
MR. WANG GUO-QIANG 王 国 強	CHINA 中 国	DEPUTY DIRECTOR OF GENERAL OFFICE, STATE FAMILY PLANNING COMMISSION 国家計画生育委員会弁公庁副主任	WHO-FELLOWSHIP WHOフェロー
MS. JI-RONGDI 吉 栄 娣	CHINA 中 国	DEPUTY HEAD, ENVIRONMENTAL CHEMISTRY DIVISION, INSTITUTE OF ENVIRONMENTAL HEALTH & ENGINEERING, CHINESE ACADEMY OF PREVENTIVE MEDICINE 中国予防医学科学院環境衛生及び衛生工学研究所 副研究員	CHINESE GOVER- NMENT FELLOW 中国政府派遣フェ ロー
MR. PAN YONGPING 潘 永 平	CHINA 中 国	LECTURER, DEPARTMENT OF SANITARY CHEMIS- TRY, SHANGHAI MEDICAL COLLEGE 上海医科大学衛生化学教室 講師	JAPAN-CHINA MEDI- CAL ASSOCIATION FELLOW 日中医学協会フェロー
Dr. JUNKO IGO 井 後 純 子	JAPAN 日 本	DENTAL OFFECER, TOYOHASHI HEALTH CENTER, AICHI PREFECTURE 愛知県豊橋保健所保健予防課 技師	COURSE LEADING TO THE MASTER OF PUBLIC HEALTH 専門課程学生
Dr. HIDEYUKI IZUMI 飯 住 英 幸	"	MEDICAL OFFICER, DIVISION OF MEDICAL AFFAIRS & PREVENTIVE MEDICINE, DEPARTMENT OF HEALTH & WELFARE, SHIGA PREFECTURE 滋賀県厚生部医務予防課 技師	"
Mr. KOTARO WADA 和 田 耕太郎	"	COMMUNITY HEALTH NUTRITIONIST 管理栄養士	"
Mr. DEWAGE DON NIMAL PADMASIRI	SRI LANKA スリランカ	CHIEF OF LABORATORY SERVICES, CENTRAL LABO- RATORY, NATIONAL WATER SUPPLY & DRAINAGE BOARD 上下水道庁中央研究所 試験課長	JICA水質管理CP研修 (参加期間 1/21~1/24)

公衆衛生教育ワークショップ講義時間割

講義日	10:00 ~ 12:00	13:30 ~ 15:30
1991年 1月21日(月)		講義Ⅰ： 「わが国の公衆衛生 の歴史と人材養成」 【元衛生行政学部長 橋本正己】
1月22日(火)	講義Ⅱ： 「日本における水系 伝染病の歴史と対 策」 【日本女子大学教授 中谷林太郎】	(講義時間 13:00~15:00) 講義Ⅲ： 「わが国の水道と廃 棄物処理の発展と歴 史」 (衛生工学部長 眞柄泰基)
1月23日(水)	講義Ⅳ： 「母子保健における 水と衛生」 (母子保健学部長 高野 陽) (国際協力室 兵井伸行)	(講義時間 14:00~15:30) 講義Ⅴ：「わが国の 衛生行政組織・体制」 (公衆衛生行政学部 長 郡司篤晃)
1月24日(木)	講義Ⅵ： 「寄生虫感染とし尿 処理」 【予防衛生研究所室 長 影井 昇】	(講義時間 13:30~15:00) 講義Ⅶ：「人材開発 における国際協力」 【厚生省健政局医事 課 遠藤弘良】 (保健人口学部長 林 謙治)
1月30日(火)	講義Ⅷ： 「都市環境と水と衛 生」 (衛生工学部室長 田中 勝)	講義Ⅸ： 「WHOの水と衛生 10ヶ年計画」 【JICA国際協力専 門員 桜井国利】

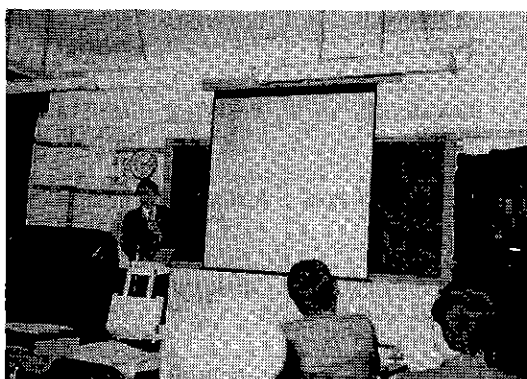
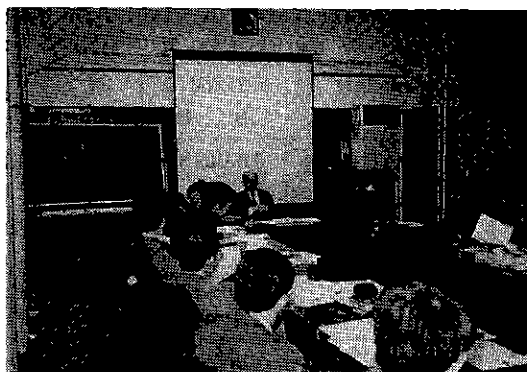
【 】=外来講師

※ 1月22日(火)は特別課程感染症対策コースとの合同講義

※ 講義場所は2階第1会議室を

う少しこの分野の研修を充実させる必要性を痛感させられた。

ワークショップの中間は土曜と日曜を挟んで滋賀県へ研修旅行を行った。「水と衛生」をテーマにしたこと



もあり、琵琶湖を素材に公衆衛生上の水の問題を取り上げようというものである。1月25日に東京を出発し、新幹線で米原へ向かう。前夜から雨が降り、朝も雲がかかっていたが、富士山の脇を通り過ぎる一瞬に雲が切れ全容が現われたのは全く奇跡的のしか言いようがなく、誰か心掛けのよい人がいたに違いない。昼過ぎ大津に到着し、琵琶湖研究所へ向かう。ここは琵琶湖を特に自然環境保護の立場から総合的に研究している所でもあり、研究所の紹介がそのまま琵琶湖の抱えて



いる問題を提示することになる。世界的にもユニークな研究所であり外国からの来訪者も多いとのこと、英語での紹介ビデオも見せてもらうことが出来た。

夜は全員で会食を行った。県関係の人はちょうど予算の復活時期に当たったため都合がつかず、たまたま県に返っていた飯住氏が県庁の人として参加することになった。同じ釜の飯を食べた仲と言うのは日本人に限ったことではないようで、特にこの研修旅行を通じて研修員相互が急速に親密になっていったようである。この研修旅行自体は JICA の研修プログラムとして設定されていたものであるが、WHO フェローの王さん、笹川フェローの潘さんも幸いに参加することができた。両フェローシップ共研修旅行が制度として確立しているためである。

滋賀県での研修は、この他大津市企業局の浄水場の見学、県環境衛生センターの水質調査船「みずすまし 2 世」号に乗船して実際に湖上に出た水質調査活動の見学と盛り沢山であった。しかも、その間を縫って彦根城、近江神宮などでの日本文化研修も設定され密度の濃いものとなり、県の協力で深く感謝の意を表する次第である。

しかも、研修員にとっては水道水の供給について、水源の保全から蛇口を出るまで（あるいは出た後も）関連する諸施設がよく連携し、さらにスタッフの質が一樣に高いことに驚いていたようで、それを可能にしているのは全国規模で公衆衛生技術者の養成を行っている所があるからだところらもここぞとばかりに力説することになった。全員心を琵琶湖に残しながら、比叡山の麓坂本の鶴岳そばを最後に京都駅から新幹線で

東京へ向う。帰路も富士山を見ることが出来たが、往きの雲の瞬の切れ間から見える感動に勝るものはないようである。

このように本ワークショップは講義、研修旅行また個別実習とスケジュールをこなし、幸い 1 人も病気になることもなく修了日を迎えることができた。JICA 研修員は暑い国から来たため日本の冬の寒さが心配であったが、結果的には滋賀県では雪景色を見ることができると幸運であったと思われる。富士山もそうであったが、琵琶湖の調査船に乗っての研修も普通 1 月は湖が荒れる季節であるにもかかわらず当日は穏やかであり、寒さ以外は天候には比較的恵まれたと言える。

閉講式では JICA 研修員に研修 2 課の新保課長から集団研修コースとしての修了証書が渡された後、高石院長からワークショップ参加者全員に本院の修了証書と記念品が渡された。その後の懇親会は本ワークショップ参加者の気持がそのまま現われたような盛り上がりを見せ、終了予定時刻を遅らせてもらう程であった。各国の歌あり、タイなまりの「お富さん」ありで紙上では再現できないのが全く残念としか言いようがない。今回は初回ということでもありプログラムの連関も必ずしも満足のいくものではなかったと思うが、テーマである「Human Resources Development」に対する本院の熱意は伝えられたように思われる。そして何よりも本院卒業生を初めとする優れた公衆衛生技術者が全国で活躍し、さらに本院が彼等をサポートしているという事実が参加者全員に与えた印象は計り知れないものがある。本コースに協力していただいた本院内外の数多くの方々に深く御礼申し上げたい。